

みえスタディ・チェックの結果（概要） 対象は1・2年生

本年4月17日に実施した「みえスタディ・チェック」の結果を、7月の保護者懇談会で1・2年生の各生徒に返します。

「みえスタディ・チェック」は、児童生徒に確かな学力を育むため、三重県教育委員会が実施している学力テストで、県内の小学校4・5年生と中学校1・2年生が対象となっています。実施教科は、国語、算数・数学、理科で、前年度の学習内容の中から、主に知識を「活用」する問題が出題されています。

学校では、三重県教育委員会による県全体の分析結果を踏まえ、本校と県全体の問題別の平均正答率や無解答の状況を比較するなどして、これまでの学習活動の成果や課題の分析を行いました。今後、この分析結果を踏まえ、各学年、各教科の指導の充実に努めます。

以下に、学年別の結果の概要を掲載しましたので、各ご家庭では、個別懇談会で配付する「個人票」と合わせてご覧いただき、生徒たちの頑張りを認め、課題を克服できるように励まし、家庭での学習習慣や生活習慣の見直しにつなげていただきますようお願いします。

みえスタディ・チェックについて

- ◆目的：児童生徒が自らの学習内容の定着状況を確認し、目標を持って主体的に学習に取り組む意欲を育む。
- ◆実施日：平成30年4月17日（火）
- ◆対象：三重県の小学校4・5年生、中学校1・2年生
※同日、全国学力・学習状況調査が、全国の小6、中3を対象に実施されました。
- ◆教科：国語、算数・数学、理科
- ◆内容：前年度までの学習で身に付けた知識・技能を活用する力を問う内容
- ◆その他：平成31年1月30日（水）に、小5、中2を対象として第2回目が実施されます。
教科は、国語、算数・数学です。

1年生の結果（概要）

1年生全体の結果は、表1-1のとおりです。また、各教科の問題別の平均正答率について、本校と三重県とを比較すると、表1-2のとおりとなります。

（表1-1）平均正答率の比較 [1年生]

教科（問題数）	五十鈴中	三重県	差
国語（18問）	66.9%	65.7%	+1.2
数学（17問）	60.6%	54.0%	+6.6
理科（20問）	68.0%	60.2%	+7.8

- ※ 各教科の問題数は、国語が18問、数学が17問、理科が20問であり、平均正答率は、平均正答数（生徒が正解した問題数の平均）を問題数で割った値をパーセンテージで表しています。
- ※ 「差」の欄の数値は、五十鈴中の平均正答率から三重県全体の平均正答率を引いた値です。

（表1-2）問題別の平均正答率に関する本校と三重県との比較の状況 [1年生]

教科（問題数）	三重県の平均正答率との比較		問題数	差が5ポイント以上10ポイント未満の問題数	差が10ポイント以上の問題数
	三重県を上回る	三重県を下回る			
国語（18問）	三重県を上回る	13問	2問	2問	
	三重県を下回る	5問			
数学（17問）	三重県を上回る	17問	4問	3問	
	三重県を下回る	0問			
理科（20問）	三重県を上回る	17問	6問	10問	
	三重県を下回る	3問			

- ※ 上の表は、問題別の平均正答率について、五十鈴中と三重県全体とを比較した結果を示しています。
- ※ 問題別の平均正答率は、正答の生徒数を全生徒数で割った値をパーセンテージで表したものです。
- ※ 各欄の数値は問題数を表しています。

◆ 国語、数学、理科の各教科で、学年の平均正答率が三重県の平均正答率を上回っており、学年全体として、小学校での学習内容の定着状況は県平均以上と見られます。特に、数学では6.6ポイント、理科では7.8ポイント上回っており、学習内容の定着状況が良好であると見られます。

○ **国語**の問題数は18問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は18問中13問、下回っている問題は5問です。県平均を下回る5問の内、5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は1問(2二)、10ポイント以上の差がある問題は2問(1-2、4三)です。また、「2二」の問題は平均正答率が30%未満となっています。(本校：25.3%、県全体：31.6%)

特に、これらの問題については、再度、解き直して理解と定着を図り、文章を読み取る力、条件に従って文章の内容を要約したり、自分の意見を書いたりする力を、さらに身に付けることが大切です。

※1-2：文脈に即して漢字を正しく読む問題 [問題は、車窓→しゃそう] (短答式)

※2二：「林業少年」の文章中の描写を根拠として登場人物の人物像をつかみ、条件に従って書く問題 (記述式)

※4三：インタビューの「記録の一部」を読み、「献立作成」の記事を条件に従って書き直す問題 (記述式)

○ **数学**の問題数は17問です。これら全ての問題において、平均正答率が三重県平均を上回っています。県平均を5ポイント以上10ポイント未満で上回る問題は4問、10ポイント以上上回る問題は3問(3(2)、4(3)、5(3))で、学習内容の定着が特に良好な状況が見られます。

※3(2)：示された考え方を解釈・理解し、規則的に並べられた数の和の求め方に適用して説明する問題 (記述式)

※4(3)：グラフから情報を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する問題 (記述式)

※5(3)：示された式「 6.28×4 」の中の数値の意味を解釈し、言葉と数を使って説明する問題 (記述式)

○ **理科**の問題数は20問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は20問中17問、下回っている問題は3問です。この内、県平均と5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は、それぞれ6問、2問です。また、県平均を10ポイント以上上回っている問題は10問、10ポイント以上下回っている問題は1問(2(4))です。教科全般として、学習内容の定着状況が良好であると見られます。

※2(4)：実験結果を基に、物が燃えた後の空気中の二酸化炭素の体積を測定する方法を改善する問題 (選択式)

2年生の結果 (概要)

2年生全体の結果は、表2-1のとおりです。また、各教科の問題別の平均正答率について、本校と三重県とを比較すると、表2-2のとおりとなります。

(表2-1) 平均正答率の比較 [2年生]

教科 (問題数)	五十鈴中	三重県	差
国語 (17問)	65.2%	61.0%	+4.2
数学 (18問)	54.0%	48.9%	+5.1
理科 (20問)	33.8%	29.2%	+4.6

※ 各教科の問題数は、国語が17問、数学が18問、理科が20問であり、平均正答率は、平均正答数(生徒が正解した問題数の平均)を問題数で割った値をパーセンテージで表しています。

※ 「差」の欄の数値は、五十鈴中の平均正答率から三重県全体の平均正答率を引いた値です。

(表2-2) 問題別の平均正答率に関する本校と三重県との比較の状況 [2年生]

教科 (問題数)	三重県の平均正答率との比較	問題数	差が5ポイント以上10ポイント未満の問題数	差が10ポイント以上の問題数
国語 (17問)	三重県を上回る	13問	4問	2問
	三重県を下回る	4問	2問	0問
数学 (18問)	三重県を上回る	14問	5問	4問
	三重県を下回る	4問	4問	0問
理科 (20問)	三重県を上回る	9問	1問	5問
	三重県を下回る	11問	1問	2問

※ 上の表は、問題別の平均正答率について、五十鈴中と三重県全体とを比較した結果を示しています。

※ 問題別の平均正答率は、正答の生徒数を全生徒数で割った値をパーセンテージで表したものです。

◆ 国語、数学、理科の各教科で、学年の平均正答率が三重県の平均正答率を上回っており、学年全体として、前年度までの学習内容の定着状況は県平均以上と見られます。国語では4.2ポイント、数学では5.1ポイント、理科では4.6ポイント上回っており、学習内容の定着状況が良好であると見られます。

なお、理科については、平均正答率が県平均を上回ってはいるものの、県全体と同様に低く、30%台に留まっています。今後、正答率の低い問題を解き直し、学習内容の理解と定着を図ることが必要です。

○ **国語**の問題数は17問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は17問中13問、下回っている問題は4問です。この内、県平均と5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は、それぞれ4問、2問です。また、県平均を10ポイント以上上回っている問題は2問（2三、3二）であり、10ポイント以上下回っている問題はありません。

今後、「目的に応じて複数の文章から必要な情報を読み取り、考えをまとめる力」、「条件に従って文章の内容を要約したり、自分の意見を書いたりする力」、「根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり書いたりする力」などを、さらに身に付けることが大切です。

※2三：交流会の活動内容を決める上で必要な情報を集めるための見通しを持ち、根拠を説明する問題（記述式）

※3二：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要約し、条件に従って書く問題（記述式）

○ **数学**の問題数は18問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は18問中14問、下回っている問題は4問です。この内、県平均と5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は、それぞれ5問、4問です。また、県平均を10ポイント以上上回っている問題は4問であり、10ポイント以上下回っている問題はありません。

なお、「1(4)」、「5(1)」、「5(3)」の3問の平均正答率は、それぞれ5.0%（県：3.0%）、23.8%（県：26.4%）、28.7%（県：28.8%）で、県全体と同様に低くなっています。これらについては、再度、問題を解き直して、確かな理解に結び付ける必要があります。

※1(4)：数量の関係を文字式に表す問題（短答式）

（今月の空き缶の回収量がa kgで、先月より25%多くなった時、先月の回収量をaを用いた式で表す）

※5(1)：8月の毎日の最高気温に関する資料から必要な情報を適切に読み取り、範囲を求める問題（短答式）

※5(3)：資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を明確にして、数学的な表現を用いて説明する問題（記述式）

（2016年と2006年の2つのヒストグラムで、中央値が入る階級をそれぞれ求めて比較し、論理的に説明する）

○ **理科**の問題数は20問です。平均正答率が三重県平均を上回っている問題は20問中9問、下回っている問題は11問です。この内、県平均と5ポイント以上10ポイント未満の差がある問題は、それぞれ1問です。また、県平均を10ポイント以上上回っている問題は5問、10ポイント以上下回っている問題は2問（2(1)、3(5)）です。

さらに、「水圧と浮力」に関する問題の「1(2)・(3)・(4)」、「物質の性質」に関する問題の「2(3)・(4)」、「植物のつくりと働き」に関する問題の「3(2)・(3)・(4)・(5)」、「地層の成り立ち」に関する問題の「4(4)・(5)」の11問については、県全体と同様、平均正答率が30%未満となり課題が見られます。これらについては、県平均を10ポイント以上下回っている2問と合わせて、授業や家庭学習で問題の解き直しを行うことが必要です。

こうした振り返りの学習を通して、科学的な知識・技能の一層の習得を図るとともに、「文章を読んで意味を理解する力」、「自然事象の解決に知識・技能を活用して考える力」、「文章と図やグラフなどを関係付けて自分の考えをまとめる力」、「根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり書いたりする力」などを身に付けることが大切です。

※2(1)：ガスバーナーの使い方を示した4つの文章から適切なものを1つ選ぶ問題（選択式）

※3(5)：「ツバキの葉の表面にワセリンをぬったものとワセリンをどこにもぬらなかったものの水の減少量が同じ」という実験の結果から見出した問題を基に、適切な課題を設定し文章で書く問題（記述式）